

## ネイチャーセンター ガイド (98)

### 子どもの居場所

人には人それぞれの居心地のいい場所がある。いまや、これは特定の限られた人にしか与えられていないような錯覚にさえ思えます。

居場所というものは、本来自分の力で作り上げていくもの。紆余曲折を繰り返しながら、位置を確立していく。位置は決して安定したものではない。何かしらの弊害は起きるものである。これが、人が生きる道「人生」でないでしょうか。自分の人生だから、自分の思うままに生きることとは全く意味が違う。自分の思うままの暮らしをしてきたら、人生は成り立っていくのだろうか、人格は形成されていくのだろうか？気の合う集団としてのまとまりに過ぎず、これまで生きてきた自己像を壊していかなければ「心の成長」は生まれられないでしょう。

では、どこで「心の成長」は生まれるのでしょうか。まずは家庭から生まれます。親からの十分な愛情を幼少期に注がれ、善悪の判断を教えられ、人としての躰をし、子ども達はその親の姿、言動を見て成長していくのです。見ていないところでやっけていてもすぐにボロが出て見破られます。そして、少年期を迎えるのです。

少年期は親の姿を映し出す場面です。幼少期も少年期も子ども達は「居場所」を探し続けているのです。少年期は、学校社会や地域社会へ一人で出て行く場面が増えてきます。楽しみも増える分、不安も増えます。親は学校や地域に子どもを任せっきりにするのではなく、「親が見られないところを見てもらう」という気持ちを

忘れてはなりません。そこで学校・地域・家庭の連携は不可欠になります。この連携を幼少期から築いておけたらと常々思っています。連携＝信頼関係です。現在の社会ではこの信頼関係が希薄で、嫌う傾向にあります。なぜこんなふうになったのか。大人が怠けているためです。まずは「自分(大人)の都合」が優先され、分別をつけられなくなってしまっています。この現状を理解しておかなくてはなりません。理解せずに行う居場所づくり事業は、行事を開催しているだけに留まり、開催している事に安心してると、継続性のある事業とは決してなりません。そして何より子ども達の心の成長にはつながらないのです。

単発なる組織ではなく、動ける組織を構築し、子どもの成長とともに、親も地域の大人達もあらゆる指導者が成長していくことが不可欠なのです。一度壊れた自然が回帰するまでには、最低でも100年はかかると言われています。理想を常に追い求められる地域、学校社会を取り戻すには、あとどれくらいかかるのでしょうか。そんな計算をしている状況ではないのです。深刻です。

子ども達に対して、居場所づくり事業という場所に安堵感を与えず、自分で居場所を作り出せるような指導、事業展開に私共施設では心がけ、動ける組織を構築しました。まだまだ未熟ではありますが、どうぞお話を聞きに来てください。お待ちしております。

連絡・問合せ先 ☎(45)6222

宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター  
開館時間：午前9時から午後4時まで  
休館日：月曜日、祝祭日の翌日

## 防災ミニ情報

近い将来訪れる大震災は!?

日本列島付近では、4つのプレートが相互に接し、それらの境界で日本海溝、相模トラフ、南海トラフが形成されています。

太平洋プレートは毎年西に約10cm、フィリピンプレートは毎年北西に3cmから5cm程度の速さでそれぞれ動き、日本列島の下に潜り込んでおり、これにユーラシアプレートなどの大陸側のプレートの端が引きずり込まれ、歪みのエネルギーが徐々に蓄積されています。この歪みが限界に達し、元に戻ろうとするときプレートが跳ね上がり、巨大なエネルギーが放出され巨大地震が発生します。

こうした海溝型の巨大地震は、歴史的にもかなり規則正しく一定の間隔で発生しており、その前兆から発生までのメカニズムもよくわかっていきます。

駿河湾から九州にかけての太平洋沿岸では、南海トラフでの海溝型地震が100年から150年おきに発生しています。しかし、駿河湾付近では1854年の安政東海地震後の約150年間大きな地震が発生していません。

このことは、プレート境界での歪みが臨界状態まで蓄積している可能性が高く、いつ巨大地震が発生してもおかしくないと想定されており、市内においてもその影響が心配される状態であると言えます。